

平成30年度に漁獲したセタシジミ親貝の肥育成績

井戸本純一・草野 充

1. 目的

産卵期のセタシジミ親貝の肥満度低下に対する対策として、琵琶湖で採捕した親貝をいったん栄養が豊富な西の湖に垂下し、その肥育効果を検証した。

2. 方法

平成30年度は、明年2月下旬に沖島の親貝放流試験区周辺（試験区）と通常漁場（対照区）を対象に行われた試験操業によって漁獲された親貝合計216kgを肥育に供した。通常操業どおり漁協に集荷されたものを購入していた前年度までと異なり、今回は船上で選別された親貝を湖上で回収し、すみやかに搬送して水産試験場内の湖水に収容した。西の湖へは3月6日に垂下し、4月15日および4月25日の2回にわけて回収した。垂下中、約半数には両殻に放流用の削痕標識を施した。

3. 結果

漁獲時の肥満度（中央値）は、試験区周辺が2.6%、対照区が1.9%で、平成28年度よりは高かったが、前年度の同月より低かった（図1）。垂下後の歩留まりは71.4%~84.4%と前年度（75.9%~90.6%）よりやや低かったものの、標識作業にともなう低下はほとんどみられなかった（図2）。

垂下後の肥満度（中央値）は、4月15日には3.4%~3.7%、4月25日には3.7%~4.6%に上昇し（図3）、垂下日数で割った上昇率は前者までの期間が1日平均0.032%であったのに対して、水温（図4）が15℃に達したその後の期間では0.063%と終盤で大きかった。

以上の結果から、低い肥満度が漁獲時や標識作業にともなう干出への耐性を低下させていること、西の湖での肥満度は水温に応じて短期間で上昇することなどがうかがわれた。

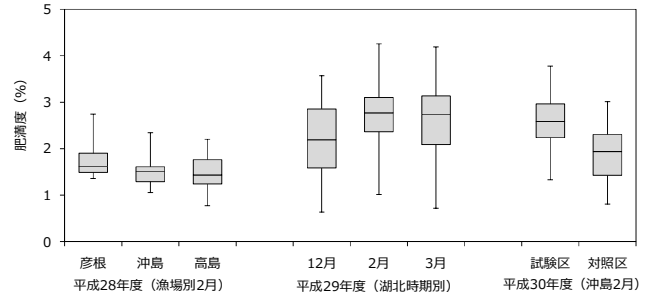


図1 平成30年度と過年度の親貝漁獲時における肥満度（矩形は四分位，バーは範囲）。

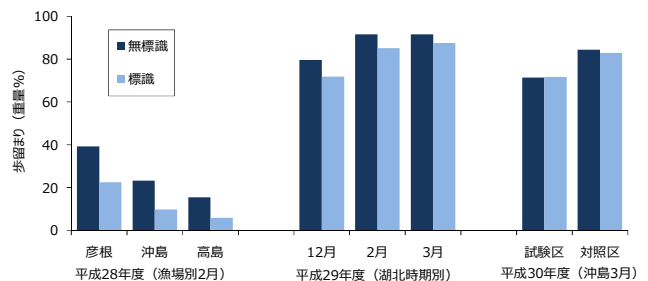


図2 各年度漁獲親貝の肥育終了時の歩留まり。

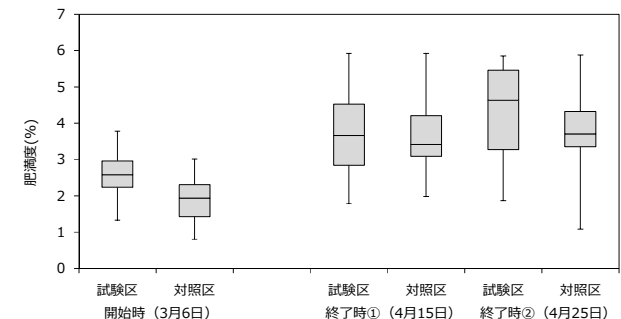


図3 平成30年度漁獲親貝の肥育前後における肥満度（矩形は四分位，バーは範囲）。

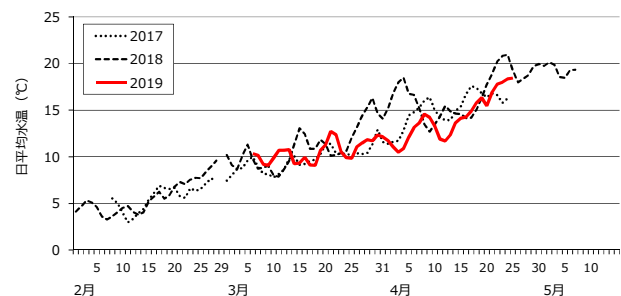


図4 西の湖における肥育期間中の水温の推移。